

1 学期最後の研究授業は、宮川先生に行っていました。本単元は、生活科の町探検の学習と関連させ、自分のおすすめする場所を友達に案内するという単元ゴールを設定していました。授業と事後研究の様子をお知らせします。本時は、4/5時間目です。

単元名 「みちあんないします わたしのおすすめの場所」 **全5時間**
教材名 「ことばでみちあんない」 光村図書 **2年2組 宮川 磨理 教諭**
身に付けさせたい力：相手に伝わるように、話す事柄の順序に気を付けて説明する力



本時の板書4/5



どんな言葉を使うと、分かりやすく伝わるかな。



自分のおすすめの場所が伝わるか友達に聞いてみよう。

授業者のリフレクションシートより

主・刈 グループではなく、ペアの学習とし、じっくり2人で確かめ合わせて、より分かりやすい道案内に修正できるようにしていく。

・道案内のポイントをチェック項目として使っているかおさえながら自分で相手に分かりやすい道案内かどうか確かめさせる。

課題 導入で、教師の道案内をモデルにして示し、クイズ形式の面白さを味わわせ、児童のやる気を引き出していく。

見・考 道案内ポイントが使えているか、必要な情報が入っているかチェックさせながらメモを修正していかせたい。

1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習の設定

○タブレットを活用して比較する。→上手になった実感につながる。

▼ペア・グループの前に個で考えを持たせる。

▼3人組は、自分事になりにくいいため、ペアがよかったのではないかな。

▼困っている児童を取り上げて広げていくとよかった。

▼モデル（教師または子ども）で課題の動機づけを行い、グループ学習に入るとよかったのではないかな。



2 児童が本気になる課題の工夫

○他教科の関連

→来年度に向けて、地図の範囲を狭くする。または、早い段階で設定し、1年生の学校案内と関連させる。

3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立て

○前時までの足跡がきちんと残っている。

○道案内のポイント（使う言葉）があったのでよかった。

▼本時のポイントは、「順序」「話し方」なので、常にここに戻らせて、話す→修正という流れにするとよいのではないかな。（うまく説明ができていないところの確認）

▼道案内のポイントが使えていたか。

▼全体の場面で取り上げた児童の案内の仕方を活かして考えられるとよかった。

▼地図が複雑だったので、言葉にこだわらなかったのではないかな。

山崎指導主事より(本単元・本時の学びのポイント)

○本単元で身に付けさせたい力に向かう単元構想

・言語活動の設定が付けたい力につながる。相手に伝わるように（相手意識）、順序など付けたい力につながる単元構想ができていた。

・学習過程を子ども達自ら回すためには、困り感やもっとよくなるはずという思考の流れを大切に構成する必要がある。

・学習指導要領 P58 「相手に伝わるようにとは、聞き手を意識して、聞き手に伝わるかどうかを想像しながら話の構成を考えることである。…」から発達段階を考慮しながら、相手を友達ではなく、知らない人に伝えるというレベルの高いところをねらってみてもおもしろいものになるのではないかな。

○見方・考え方を働かせるために

・より分かりやすく伝えるためには、言葉や順序にこだわる。着目すべき点が明示されていたのでそれをいかに活用するかが大切。

・一人の児童が前で説明して、みんなが確認していた場面が一番思考の働いていた場面。地図なしではなく、地図を見ながらやってみると思考を深める活動につながったのではないかな。

今回は、国語科の「話すこと・聞くこと」の領域における授業でした。昨年度までの「書くこと」の領域に加え、違う領域での学びがありました。領域が違っても、しっかりと見方・考え方を働かせることの大切さや学習活動のどこで思考させて深めていくのか改めて考えることができました。

教材や他教科との関連、本単元で身に付けさせたい力に向かうしっかりと考えられた宮川先生の単元構想、前時までの準備（掲示物など）、板書などから日々の授業実践につなげていきたいことがたくさんありました。

宮川先生、忙しい学期末が近づく中での研究授業をありがとうございました。